

千両の実をこぼしたる青畳-今井つる女
センリョウ(千両)は冬に美しい赤い実をつけます

久が原地区 管内	人口	男	12,905人
		女	13,297人
		計	26,202人
	世帯	11,927世帯	

平成20年12月1日現在

くがはら

発行：わがまち大田久が原地区
推進委員会
編集：地域情報紙「くがはら」
編集委員会
事務局：大田区久が原特別出張所
〒146-0085 大田区久が原4-12-10
TEL (3752) 4271
FAX (3752) 4514
題字：三木兼吉

「はたち」。このことばは、幼い頃から特別な節目のことばであると感じていました。まだまだ先のことと思っていたのに、いつの間にか目の前に迫ってきています。幼い頃に思い描いていた二十歳に、今、自分はなれて

成人の日に寄せて
はたち
石川裕梨



いるのか、実際は不安でいっぱい。それでも、自分の今までを振り返ってみると、自信を持つ「はたち」を迎えることができそうです。二十年という間で、さまざまな人と出会い、本当にたくさんさんの出来事を経験してきました。

平成二十一年、明けましておめでとうございます。昨年にも相変わらず地震や集中豪雨が 발생し、食の安全を脅かす事件が絶えずという状況が続きました。また、秋には未曾有の金融不安が起り、今、世界中がこの対応に追われています。日本は毎年のように首相が

新年のいほご
久が原地区
自治会連合会長
松田慶三

謹賀新年
平成二十一年己丑

変わったり、景気や雇用が悪化したりと、先行きどうなるか不透明な状況です。しかし、このような閉塞状況にあっても、久が原地域では凶悪な事件や事故もなく、おおむね住民の生活は平穏であったと存じます。これもひとえに皆様の自助努力の結果と深く感謝申し上げます。今年も世の中はこのような状況が続くと考えられますが、久が原は緑豊かな静穏の街、安心、安全に皆が暮らせる街、子どもたちが健やかに育つ街をめざし、引き続き皆様とともに進んでまいります。ご協力をお願いします。

無事に二十歳を迎え、成人の日が近づき、「子どもも子ども」と言われてきた自分が、もう少して社会的に大人とし

成人の日に寄せて
大人へのステップ
長江拓輝



て扱われるようになるんだと思うと、嬉しい反面、まだ子どものもままでいたいなんて思ってもあったりして、少し寂しい気もする。これからは自由な行動のかわりに、その一つ一つに多かれ少なかれ責任が伴うようになるわけで、今まで勝手気ままに生きてきた自分は、そのまま社会にすぐ飲み込まれてしまおうんじゃないかという不安をぬぐえない。最近では、バイトや課外活動などで社会の厳しさに触れる機会が増え

した。辛いことも楽しいこともたくさんあったけれど、すべて自分の成長につながったと思います。これまであたりまえの存在としてとらえていたけれど、この節目の時を迎えて、自分のまわりにいる人々に感謝の気持ち忘れずに生きていこうと思っています。二十歳の年を迎えることで、新たな責任を負うこととなりますが、それゆえに、すべてが自分らしいです。自分だけで良いも悪いも決まるというのを心にとどめ、将来また自分を振り返った時に、充実していたと感じられるようにしたいです。



ご存知ですか？〈お正月編〉
七草がゆ

1月7日の朝に七草がゆを食べる行事は人日の節句といい1/7人日(七草)の節句、3/3桃の節句、5/5端午の節句、7/7七夕の節句、9/9重陽の節句のひとつです。文字通り人の日とされ、過去1年の厄払いをしてこれからの1年の無病息災と招福を祈願する日とされています。

これとは別に七草(せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ)がゆに命も延びるとされ、お正月のごちそうやお酒で疲れている胃腸を休ませるここと、ビタミンの豊富な青菜で栄養のバランスを整える効果もあるようです。お正月でも飲食はほどほどにしたいもので。(小倉敦司)



てきて、自分なりに大人の世界というのを感じ、「ああ、いやだなあ」なんて思いつつも、自分に厳しくなろうと頑張っている。思い返してみれば、昔はかなり妙な人間だったこともあり、まわりには、「なんだこいつ」なんて思った人もいるんじゃないかと。ここまで支えてきてくれた人、地元久が原ありがとう。おかげさまで、今ではとても落ち着いています。これからは二十歳になったからといって大人ぶったりしないこと、自分に正直に、できないことをちよつとずつできるようにしていければいいかなと思う。

団塊世代集まれ! 六十歳を迎えた 団塊世代の皆さんに聞きました。

人生の一区切り
菱山和民



この原稿が載る頃、六十歳の還暦を迎え、人生、良くも悪くも一区切りかなと思われ

ます。今から三十数年前、私の父の六十歳の頃、他人の方から、お父さんは七十を越えているのですかと、よく聞かれたものです。それほど、当時の六十歳は老けてみられたものでした。団塊の世代に生まれ、お勤めの方は、ちょうど定年を迎え、そして第二の人生のスタートとなります。すでにご自分の息子さん、娘さんが結婚され、お孫さんがいる方も多

です。地元で生まれ、地元で育った私は、地域の多くの方々と知り合い、若い頃より各種行事に参加させていただき、多くの勉強、人生経験をさせていただきました。

新たな旅立ちに
勇気を持って
松永幸一



人生六十年、長いようであるが、今、振り返るとあつという間であった。

久が原に生まれ、二十二歳で就職、日本全国を転勤の連続、四十七歳にて東京勤務、やっと地域の行事に参加できた。幸い健康に恵まれ、大過なくすごすことができたのを両親、妻に感謝している。新たな旅立ちに、小さな勇氣と心意気を持ちたいと思う。今まで仕事一辺倒で、地域との関わりが少なかったに、ちょっと臆病になっていく自分がいた。人との関わりで自分が生かされてきたことを思い、勇気を持って、地域活動に飛び込んでいきたい。団塊世代と言われ、昭和に

生まれ育って平成に大成するの気概を持って生きていきたい。久が原の皆様、これからよろしくお願い申し上げます。

高度成長を支えた自信
小倉泰



日本の高度成長を支え、がむしやらに走ってきた企業戦士たち、広い意味での「団塊世代」である一九四七年から五一年生まれの約一〇〇〇万人のわれわれが、二〇〇七年から順次定年退職を迎えます。まわりの仲間たちは、定年後は退職金と年金でささやかな老後を送ろうと思っていたのに、退職金と年金支給額が減額され、前の世代の人たちとくらべ、苦しい定年生活を迎えるようになると悲観的です。

経済面から見れば確かに言われるとおりですが、われわれの世代は、高度成長を支え、会社ではこれまで中心的な役割を果たしてきました。この経験は、リタイア後の生き方に間違いなく活かせると思います。従来の定年や老後の概念を崩し、高齢化が進む日本の社会に希望と活力を生み出すことができると思いますが、そうしなければならぬと思います。第二の人生をスタートするにあたり、感じたことを書きました。

六十歳はお爺さん?
池上孝三

「村の渡し」の船頭さんは今年六十のお爺さん。これは昭和十六年七月発売の「船頭

久が原の人シリーズ② 小島サダ子さん 思いをこめて 針を運ぶ



久が原四丁目の「長久山安詳寺」客室に、荘厳な「菩薩」のキルト作品が掛けられています。地元の方ならご存知の人も多いと思います。そして、この見事な作品の由来をうかがってみたいと思うのではないのでしょうか。

作者は小島サダ子さん(七十七歳)、ご住職のお母様です。サダ子さんは、ハワイアンキルト作家キャシー中島さんに師事しました。ハワイアンキルトは白布を使うオリジナルなキルトですが、もとはアメリカのパッチワーク技術が伝えられ、ハワイで独自の芸術作品として成長したものだそうです。アメリカでは、ミシシッピ

一川が氾濫し、村が崩壊した時に女性たちが立ち上がった布をキルトにして村おこしをしたという歴史があり、今でも毎年ケンタッキー州のパデューカで「アメリカンキルトソサエティ・キルトショー」が開催されています。

サダ子さんはこのキルト国際コンクールに、一九九九年にパッチワークキルトを出品し、入賞の栄誉に輝きました。その時の作品が、この「BO SATSU」だそうです。菩薩を中心に蓮の花や白い象の行列が描かれた構図で、木綿の生地ほかに古い袷袋衣や印度シルクも使っているそうです。



下絵を書き、型紙をとり、そして針を進める気の遠くなるような作業を一年以上も続けて、この作品が完成したそうです。横一八〇、縦二一〇センチの大きな作品で、お話をうかがいながら親しく作品に接してみると、本当にすごいと思います。優しいお顔の菩薩さまと十九頭の白い象、色彩が魅力的で圧倒される思いがあります。サダ子さんは多数の檀家の方々をお見送りされてきました。その方々のご供養にと、一針一針に万感の思いを込めてパッチワークに取り組んでこられたそうです。「不思議と、大変だという思いはありませんでした」と穏やかに微笑みながら、語ってくださいました。(高橋房子・福田久美子)

編集後記

平成も二十一年になり、明治大正はほど遠く、昭和も遠くなり、時の速さが気になり、近くの風景、人なりを忘れかけそうです。牛年にちなんで、のんびりと憩うのは無理なのでしようか。でも、初詣で楽しい紙面になるように。(小倉敦司)